第２回宗像市総合計画審議会（調和のとれたまちづくり）議事要旨

日　　時	平成２６年１月２７日（月）　１９時００分～２１時００分
場　　所	市役所第２委員会室
出 席 者	【委　員】天野宏欣　今西良一　齋藤　豊 永野芳宣　牧　敦司　宗像　優 【事務局】中野部長　塔野課長　田中係長　立花係長　新海　狩野 尾園　中村　赤田　吉武 森理事　梶谷課長　長谷川課長　古川課長　村上参事 小野参事　惠谷係長　花田係長　梶原係長　安川企画主査 盛永　有吉　橋本
報　　告	１）第１回宗像市総合計画審議会（調和のとれたまちづくり部会）の議事要旨について ２）第１回部会の意見に対する対応について
議　　題	１）第二次宗像市総合計画　基本計画案について
その他	第４回調和のとれたまちづくり部会の開催日について

１　経営企画課長あいさつ

２　報告事項

（１）第１回宗像市総合計画審議会（調和のとれたまちづくり部会）の議事要旨について

修正なし

（２）第１回部会の意見に対する対応について

事務局説明

（部会長）

会議の中身をよく反映していただいているかと思う。今日配られた資料と説明を踏まえた上で、修正項目についての指摘があれば、意見をいただきたい。

（委員）

都市ブランドには、子どもたちが安心安全に過ごせるように、犯罪や交通事故、消費者トラブルのない宗像を目指しますと書いているが、前回の部会でどなたかがおっしゃっていたように、これは当然のこととして取り組むべきことだと感じる。

これをあえて都市ブランドにしている理由というのは、恐らく子どもたちが安心安全に過ごせるような都市のブランドをつくりますということが、メッセージではないのかと思う。こういった宗像を目指すというよりも、こういったブランドをつくっていくというほうが、表現としては適切なのではないかと思う。

（部会長）
事務局も考えたと思うが、表現の問題も含めての指摘だと思う。
前回も安全安心はベーシックな問題であるが、それを踏まえた上でのブランドとするというような意見であったと思う。まだ、あと３回会議がある。文言については、他の項目も含めて出てくる可能性もあるため、よければ、次回検討ではどうかと思う。

（事務局）
今の意見は、おっしゃるとおりであろうかと感じるところもある。都市ブランドについては、担当課と調整させていただきたい。
最後をブランドで締めくくるような表現でまとめたほうがいいということだが、市としては都市ブランドを都市のイメージという形で考えている。防犯、交通安全等の施策に関しては、住環境の充実の一環の中に入ってくるのではないかと考えている。
そういった意味で、他の施策においても、何をすることが宗像のブランドであると表現すると、ブランドの方向性がばらける可能性があるため、これらの取組みを合わせることで宗像ブランドになるというような表現にしている。

（部会長）
事務局間で調整をしなければという感じがある。

（委員）
コメントとしては、ブランドづくりをすることを目標にすると、いろいろな施策の情報発信をどうしていくかということを考えると思う。
こういうまちをつくっていくというと、多分実際の施策を具体的に実施することに主眼があり、それを情報発信するところに目がいかないのではないかと危惧しているため、もっとメッセージ性を出してもいいのではないかとい感じた。コメントです。

（部会長）
コメントというか提起であるため、他の表現も含め総合的に整理をする必要があると思う。次回、あるいは次々回、最後でも結構だと思う。整理していただきたいと思う。

（委員）
施策に防犯、交通安全、消費生活対策と３つの柱を明記したということだが、戦略的取組においても表記を揃える必要があれば消費生活対策を追加し、協働には消費生活対策に関する文言が不要だということであれば、これでもかまわないと思う。

（部会長）
これもあわせて検討していただきたい。

３　審議事項

（１）第二次宗像市総合計画　基本計画案について

事務局説明

（部会長）
議論は、１ページずつの方がわかり易いかと思う。ただ、関係しているところがあるため、両方に関係する発言も可能ということで進めたい。
最初の「豊かな自然と快適な生活環境の融合」は、上から順にゴミ、環境に配慮した施設、環境汚染となっている。施策区分ごとに、それぞれの現状課題、取組事業と横並びになっている。できれば上の方から意見をいただきたい。

（委員）
現状と課題で、トータル的なごみは少なくなっているが、中身を分析すると事業所から排出されるごみは微増とある。これに対する取組方針が明解ではない。事業所から出るごみが増加している原因はどこにあるのか。
増加した分を補うために３Ｒに取組むとあるが、それは違うと思う。

（事務局）
事業者からの排出については、３号線沿いに温浴施設や事業所ができており、その分が少し影響しているのかと思われる。傾向としては２２年が一番減少した状況であり、これは事業系ごみも家庭も同じ傾向である。
ただ、事業系のごみが若干その後の増加が大きいということで、事業者にアンケートを実施し、事業者の状況を把握したところ。内容をまず把握し、どのような方策が取れるかという指導に着手した。しかし、事業所は経費がかかるため、そこを充分に聴取し、今後の施策を検討していきたいと考えている。

（委員）
確かに宗像は、全国あるいは福岡県よりも１人当たりのごみの排出量が少ないと思う。

本当に住民のレベルは高いと思う。その中で、原因が事業所であるとはっきり謳っているため、減少するためにはどうすればいいのか。この文章では、補うために３Ｒをやりなさいというように受けとれる。もちろん３Ｒをしなければならないが、事業所から出るごみを少なくするとか、そういった文章であればわかりやすいと思う。

（部会長）
現状課題の４行目「そのため」と、次の行の「３Ｒを推進し」となっているが、そもそも「そのため」という接続でいいのか。「推進です」というのは、市全体で推進ということなのか、増加している事業所ではないのかという関係があるように思う。
また、それだけ重要なことであれば、取組方針か取組事業の中に記載があるべきではないかという意見であると思う。

（委員）
事業所ごみが増加ということだが、たまたま２３年度が増加しているのであって、全体的に見ると減少している。数学的に見ると、減少傾向ということになる。排出するごみが増加しているという書き方がおかしいのではないか。

（部会長）
減少し続けていたが、少し増加した程度ということだと思うが、そこはちょっと気になる。

（事務局）
２４年度の実績では、やはり若干上がっている。極端な増加ではなく微増という状況。

（部会長）
「増加」ではなく「減りません」とか。増加というと全体的に右上がりということだという指摘だと思う。

（事務局）
そこはもう少し検討させてほしい。

（部会長）
取組方針と事業についてはどうか。現状課題は言葉の整理で随分変わると思うが、取組方針は現時点では書きづらいということか。説明では、指導行政はやっているということだったと思う。

（事務局）
今年より指導を始めた状況であるため、すべての事業所を調査したわけではない。事業所数もかなり多い。聞き取りを進め、もう少し現状を把握していきたいという状況である。今すぐに、施策を出すのは厳しい。

（委員）
ごみの中身についての話だが、以前調査したところ、ごみの中身の３０％は資源としてフィードバックできるものであった。これを宗像全体で取り組めば、ごみ処理コストが少なくなり、CO_2削減にもなり、地球温暖化防止につながる。家庭から出るごみの４０％が生ごみであって、その中のさらに８０％は水だというデータが出ている。タウンプレスに出たと思うが、生ごみを一絞り、５３グラムを絞ればいい。家から出る生ごみを一絞りして出せば、約２千万円のコストダウンになるということが実際に出ている。そこに着目して取り組んでもらいたいと思う。
年間２千万円以上というと、市の財政にも相当寄与する。繰り返すが、地球温暖化あるいはCO_2の削減にもつながるため、どこかに触れてもらえればありがたいと思う。

（事務局）
現在も水切りの推進はＰＲしているが、もう少し力を入れていく。
その他の分別につきましても、宗像市の場合は１４品目と結構多く、他の市町村に比べてもかなりの種類で分別している。これについても集団回収の奨励も含め、資源できるごみについては、さらに啓発並びに何かの施策を検討していきたい。

（委員）
取組方針のところに、子どもの頃からの環境教育による云々と書いてあるが、これは非常に大事なことだと思う。
日頃思っていることだが、資源回収を業者に頼んでいる自治区と子どもや大人、高齢者も一緒になって回収している自治区がある。大違いだと思う。資源回収を通じた子どもの育成は、大きな次元のまちづくりとして非常にプラスになる。子どもと高齢者、親が話す機会はなく、親同士が話す機会も非常に少ない。今はごみの話しだが、まちづくり全体でプラスになるようなことを市全体として取り組むことを出していただきたいと思う。気持ちを話したので、あとは考えてもらいたい。

（部会長）
ここに書かれている内容の背景をもう少し反芻していただき、もう少しブラッシュアップもやっていただきたい。ポイントとしては、３Ｒに謳っているため、方針と事業に結びつけるような構成でなければ、わざわざ括弧書きにしてカタカナ文字を入れる意味がない

と思う。３Ｒ運動をするならばする、しないのであれば書かないという選択肢も含めて検討いただきたいと思う。

重要なのは、ごみの減量と適正処理という大項目がしっかりしているため、今進めていること、取りかかっていること、重点的にやりたいことをもう少し体系立てて整理していただき、地域密着の方針が出るようにしていただきたい。

それでは、環境に配慮した施設等の管理運営の項ですが、意見はどうか。

（委員）

ごみの減量と適正処理の主な取組事業だが、一戸建ての住宅やマンションなど、住環境違いや世代の違い、ライフスタイルの違いによって、排出されるごみの種類が違うのではないかと考えられる。

したがって、適正なごみ処理のため、地区からのごみの排出の実態把握はしているのか。実態に応じた対応が必要じゃないかと考える。そのような取組事業を組み込むのはどうか。

（部会長）

実態把握というキーワードが出たが、今の発言について、どうぞ。

（事務局）

毎年、組成調査を行っている。袋を抽出し、どのようなごみが出ているのか、全体を１回では把握できないが、そのような調査は行っている。どのようなごみが多いか、一応把握はしている。

（部会長）

実態把握という、キーワードとしてはどこかで使えそうな言葉であるため、参考にされたらどうかと思う。

（委員）

念のために確認させていただきたい。事業所から排出されるごみは、グラフを見ると減少傾向にあると読み取れるという発言と、実は平成２４年度では若干増えているという説明があったと思うが、果たして増加していると言い切れるのかどうか、やはり気になる。表現の問題だと思うが、近年減少傾向にあったが近年増加しているというような表現のほうが、違和感がないと思う。

家庭から出るごみは減少傾向にあるが、事業所から出るごみが最近増えつつある。そうした中で、事業所から出るごみ対策が本当に重要であれば、やはり主な取組事業や取組方針で、事業所をワードにした記述が、メッセージとしては伝わると思う。

取組方針で、例えば環境教育は子どもへの教育というイメージがあるが、子どもや事業

者に対する環境教育といった表現であれば広く捉えられると思う。
　また、１段落目のつながりだが、まず１段落目にいきなりごみの不法投棄があり、同じ段落の２行目で家庭や事業者から排出されるごみとなっている。このまま読むと、不法投棄されるごみのうち、家庭原因のごみが減少し、事業所原因が増えていると読みとられかねないため、表現の問題だと思うが、段落を変えか、明記したらいいのではと思った。
　不法投棄関係だが、現状課題で真っ先に不法投棄があると、宗像市の一番の課題なのかという感じが出る。施策概要では不法投棄は最後にあるため、あくまでもごみの減量と適正処理、プラスアルファ不法投棄みたいな位置付けであるならば、今の表現では不法投棄が原因と読み取られかねないため、修正していただきたい。

（部会長）
　そのとおりだと思う。出だしをごみの不法投棄ではなく、ごみの総量の話から始めた方が、最後のごみの減量につながり、不法投棄は適正処理のグループかと。段落も含め、少し練り直したほうがいい。

（委員）
　体系の話に戻るが、この施策のゴールは豊かな自然と快適な生活環境の融合と、個人的にはこれが宗像の一番いいところだと感じているところだと思う。すぐそこにある豊かな自然とそこに快適な生活が融合している、これを目指すための施策群だと思うのだが、それがごみや下水、環境汚染につながっていないような印象を受ける。
　例えば、豊かな自然と快適な生活環境を融合させるためごみの減量適正処分というのは、恐らく今後１０年でいうと、快適なごみ処理サービスの提供というようなところを目指さなければいけないのではないか。下水道に関しても、快適で持続可能な処理のインフラを整備することを目指していくための計画のような気がする。今抱えているごみの減量や適正処理も、環境に配慮した施設の管理というのも、既存の施策体系のものだというふうに思う。
　この計画は、次の１０年にこういった豊かな自然と快適な生活環境を融合するために、一体何をすべきか、多分するべきことは大きく変わらないと思うが、その伝え方をもう少し変えていいのではないかと感じる。
　それにあわせ、ここもブランドがないが、そのようなことを行っていけばブランドになるのではないかと感じる。

（部会長）
　全体の体系について、意見をいただこうと思っていた。左側のタイトルが非常に気になる。どう見ても、豊かな自然と生活環境融合の内容ではないような気がする。自然と生活環境を融合するための施策に本当になっているのかが気になることと、この趣旨では守ら

ないといけない自然は「豊か」を「大切な」という切り出しの方があっているかと思う。大切な自然を守るために、ごみのことはこうしましょう、環境はこうしましょう、汚染はこうしましょうとあり、むしろ「豊か」はその次の「自然環境の保全と再生」のまくら言葉にした方がしっくりくるのでは。個人的な意見だが、そのように思う。

体系のことは私も引っかかっていたため、ほかの委員の皆さんも意見があれば、少し出していただければと思う。

また、文字数も揃った方がいいのでは。融合というのもどうか。

あと、施設と環境汚染の話もあるため、ひと通り終わったところで一度、大事なところという気がするので。では、次の項目でよろしいか。今の意見は、ちょっとホールドしていただく。

それでは、環境に配慮した施設等の管理運営のところで、意見はいかがか。

（委員）

ここでは、下水道計画区域内だけの内容が書かれており、下水道計画区域外ではどのようなことを配慮するのかが抜けていると思う。上水道についても抜けているのではないか。

現状課題において計画的な整備を行うということだが、整備はほぼ終わっているということであるため、今後はやはり運営管理をどのように適切に行っていくのかが大事なことであるため、運営管理という表現にしたほうがいいのではないかと思う。

（部会長）

下水道整備区域の外内の話と、上水道の取り扱いをどのように考えたのか、少し説明が聞ければと思う。

上水道は環境を壊す側ではないが、上下水道は非常に緊密な関係だと思うが。

（事務局）

下水道区域外については、確かに記述はない。下水道としては、合併浄化槽を推進していきたい。現在も公共下水道がどうしても通せない区域地域があり、資金の貸し付けまたは補助金といった形で、合併浄化槽を推進している。これを引き続き、推進していきたいと思っている。

上水道については、以前は市が公益事業として実施していたが、現在は宗像地区事務組合が事業主体となり、宗像市と福津市あわせたところで末端給水までを実施しているため、直接的な市の上水道事務については、現在抜けた状況になっている。

（委員）

上水・下水は一体化した上下水道課という体制が非常に多い。事務組合で上水道を行っているのだろうが、やはり市として上下水道一体となってどのように管理運営をしていく

のかということを考えていかないといけないのではないかと思う。

（部会長）
　リーダーシップは、どちらが取っているのか。

（事務局）
　確かに。事務組合で上水関係を担当しているが、市としての水道行政をどう考えていくかというのは、事務組合の構成団体が２市であるため、事務組合に全部任せている。市として上水をどう考えていくのか、事務組合と調整しながら、２市の問題でもあるため、検討してみたいと思う。
　ここは環境に配慮した施設の管理運営ということで、どこが環境に配慮し、どういった施設の運営をやっていくか、そういったところもあわせて詰めていきたい。長寿命化が進めば環境に配慮したということにならない場合もある。課題として引き取らせてもらう。

（部会長）
　豊かな自然と快適な生活環境の融合となっているが、あわせて検討いただきたい。この項について、どうか。

（委員）
　この環境に配慮した施設だが、これは下水道施設あるいは上水道の話しも出たが、その他どのような施設を想定しているのか。例えば、廃棄物関係の施設というのはどこが扱っているのか、他はどうなのか。

（事務局）
　廃棄物は、現在玄海環境事務組合で行っており、宗像、福津、新宮、古賀４市町で構成している。工場は宗像と古賀１カ所ずつにあるが、基本的には４市町で構成されている。市としてどうするのかについては、水道と同じだが、このことも検討課題としたい。

（委員）
　以前の資料では、火葬場があったと思う。１１月６日付第５回の資料３の項目だが、その点だけは伺いたい。

（事務局）
　火葬場については、体系図に火葬場と書いていたものがあったと思う。現在、炉のリニューアル、改築を行っており、新しい火葬場についても新年度から運営を開始することになっている。基本として、管理運営と維持管理があるが、特段新たに何かの機能の付与で

あるとか、何かしらの付加価値をつけることはないため、記述については削除している。

（部会長）
　ブレインストーミングの中でピックアップし、検討したが、取り上げることがなかったということでよろしいか。
　他になければ、上下水道というキーワードの話と、それ以外の産廃等も出たが、その系列ももう少し広げるなり、表現を膨らませるなり、プラスアルファで整理していただきたいと思う。特に、取組事業は長寿命化が再掲であるため、結果的には計画的な維持管理の実施のみということであるため、このままでは下水道のみと取られてしまう。下水道だけであれば下水道施設とするか、もしくはもう少し幅広で考えるのかというのは整理しなければ、長寿命化と一緒だということでは少し寂しいのでは。
　では、次の環境汚染の項目に移りたい。重要なテーマであるが、意見質問はあるか。
　先ほどの変更で「苦情が市に寄せられています」とあった。典型７公害というのは、どのようなものなのか。

（事務局）
　大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭の７つ。

（部会長）
　総合的に行うということでいいのか。地盤沈下とかもあるのか。大気汚染は全体的に知れ渡っているが。

（事務局）
　地盤沈下の苦情はない。

（委員）
　大気汚染については、光化学オキシダントとＰＭ２．５についての情報発信を行うということだが、何か具体的に小中学校に空気清浄器などの設置などの対策を考えているのか。

（事務局）
　環境課としては考えていない。学校部門において、そのような対策があるのかはわからない。環境部門としては、そのようなことまで考えていない。

（委員）
　今後、情報発信だけではなく対策を考えていくとか、そのようなことについて何か記述が欲しいなと思う。

（事務局）

具体的にＰＭ２．５が高くなると、高齢者やアレルギー疾患、肺に疾患等がある方については、屋外での活動を控え、不用な外出をしないでいただきたい。全国的なものだが、必要がなければ窓を閉め、外に出ないでくださいというような趣旨徹底の仕方になる。

光化学オキシダントについては、市での発生元がさほどないため、警報が出るような恐れはない。しかし、オキシダントを発生する外来物質が増え、それが光に当たり、光化学スモッグが発生する場合には、人が倒れるような危険な状態になる。

ＰＭ２．５については、昨今非常に観測の量が増えており、そのような時には、市の緊急情報伝達システム等を通じ、全コミュニティ・センターや全小中学校、保育園等に自動的に配信するようになっている。その中には、対応方法を３項目ぐらいの簡単な文章にまとめ、注意文書と一緒に流すようにしており、対応していただきたいと思っている。

（部会長）

かなり専門的なことを、わかりやすく市民の皆さんに伝えるという重要な役割だと思う。

情報提供は２種類ある。危険な状態になったときに即座に知らせることと、対応策を市民の方にわかりやすく広報等で伝えることだと思う。メリハリをつけ、切り分けて施策化した方がいいかもしれない。１つで全部を行っているように、捉えがちなところがあるかと思う。

モラル、マナーの話が上の方にあるが、かなり重要な課題なのか。

（事務局）

宗像市には、地盤沈下といった大きな公害の発生源となるような事例は具体的にはない。市役所の窓口や電話等では、野焼きや空き地の草刈りに関する件が圧倒的に多い。５００件から６００件の宅地に対して、市から通知を発送しているが、相当数の苦情がある。所有者が適正に空き地の管理をしていれば、苦情にはつながらないが、具体的には草が伸びて困っているという苦情等がある。

また、犬猫の飼い方のマナーや猫の餌やり関係についてだが、毎日電話の苦情がある。いろいろな地区で、どう対処すればいいかという相談がある。特別法に基づいた処分ができないため、非常に困っている。猫がかわいい、可哀そうだから餌をやっているという一方、その猫が繁殖し、ふんや尿の臭い、毛が入ってくるという苦情がある。

野焼きについても、これぐらいはいいだろうということで燃やすことにより、近隣から苦情を申し立てられるということになる。一人一人が環境に気を配りながら生活をする必要があるため、モラルやマナーということを筆頭に上げている。

（委員）

施策の区分が、環境汚染に対する対応となっている。屋外焼却は環境汚染になるが、空

き地の雑草や犬猫の飼い方のマナーが悪いということが環境汚染に対応するのか。環境汚染というと、恐らく典型７公害をイメージすると思われる。まずこちらの方を先にし、その他生活環境面に対する苦情も寄せられているため、マナー対策を行うとした方が、この施策の区分のマッチするのではないかと思う。

現状課題をこの順番でまとめるのであれば、施策区分の表現を変える必要がある。検討いただきたい。

（事務局）

検討したいと思う。

（部会長）

環境のことでも、意見が出たが、はいどうぞ。

（委員）

環境汚染に対する対応だが、取組方針で市民活動団体やコミュニティと連携と記載しているが、野外焼却や雑草、犬猫の飼い方のマナーというのは、市民活動団体やコミュニティとの連携で十分でないかと思うが、光化学オキシダントいうような環境汚染物質は、関係活動団体やコミュニティだけでは到底不可能ではないかと考える。

したがって、ここには学校との連携を入れた方がいいのではないかと思う。

また、主な取組事業で環境教育の推進が抜けているが、これをぜひ入れていただきたい。

（部会長）

汚染をメインに持ってくると、この流れでいくとコミュニティと市民団体をそのように捉えてしまう恐れもあるため、入れ替えることで十分変わってくるかと思う。

また、学校や職場等のことも気がかりである。学校もどこかにキーワードとして入れ、環境問題について改善の方向という良い提案だと思うため、ぜひ検討いただきたい。

快適な生活環境の融合というのは、宗像で気持ちよく過ごすそうとすると、必然的にごみを出す、猫犬も飼うと音を出す、当然下水道も必要になる。そうすると、今ある大事な自然との関係において、そのようなことは改善されているが、今後はそれを融合させたいということがキーワードなのか。そのような組み立てでいいのかという議論を最後にさせていただき、各委員から出していただければと思う。

大きな流れは、快適に暮らそうと思うと環境との関係を非常に仲よく、共生と書いているが、上手につき合わなければいけないということが、ここの大きな項目である。

（委員）

ちょっと、バランスが悪いかもしれないが、次の自然環境の項目とあわせ、豊かな自然

と快適な生活環境の融合というのもあるのでは。

（部会長）
　この議論は前の委員会でするべきくくりの議論ではあるが、施策を読むと、特に自然環境というキーワードがあり、どの委員も同じ思いでここに入ってきたのではないかと思う。
　もう少し議論し、次まで読み上げたところで、提起を少しさせていただく。
　次の自然環境の保全と再生の順番からいくと、環境保全に対する取組みの推進という項目で、ここはストレートに具体的な自然環境の名前が出てくる。さつき松原や釣川という宗像市が誇る水の資源、水の環境について、あるいは森林についても書かれているが、意見はいかがか。

（委員）
　データがよくわからなかったのだが、自然環境の保全と再生のテーマとして、例えば生物の多様性や漁業資源の保護、バイオマスも竹林だけではなく原生林もあるかもしれないが、いろいろなテーマがある中でなぜ、温暖化対策と竹林を含めた保全を選ばれたのか、理由がよくわからなかった。もしこれが、これまでの事業としてやってきたものであるならば、今後１０年も重点とするのか把握していないため、知りたいと思った。

（事務局）
　この事業の上の部分については、かなり前から取り組んでいる。しかし、下の部分については、２３年度に地球温暖化対策実行計画を策定し、取り組んでいるもの。継続というより、むしろ充実した内容として、今後とも取り組む大きな指針を上げている。

（部会長）
　温暖化防止は、新たに出てきた重要なテーマとして加えたということか。
　以前から取り組んできた世界遺産の関係もあると思うが、海や島は合併後のものであるため、どうなるのか気になった。この内容は、森林と河川という感じがする。海岸線は、河川の延長という感じがする。宗像は海もある。空もあるとは言いにくいが、いかがか。

（事務局）
　海や海岸については、漂着物といった海岸の保全活動というくくりになっている。
　また、一般的な自然環境を保全するための景観や規制については、景観の整備等において、その部分を特化し述べている。
　離島については離島全般として捉え、賑わいのある部会で離島の活性化や産業、振興というような全般的なことに関する施策を設けている。

（委員）
私もそうではないかと思い、景観と賑わいを見ていたが、そのような意味合いが触れられていない気がする。
宗像の生活の良いところは、すぐそこにある自然に親しみ、すぐに触れられることがすごくいいところだと思う。このような自然をどのように親しみやすいものにしていくのか、市民が白砂青松や山林、季節によっては蛍や花など、そういったものに触れやすいようにしていく施策を、ここに位置づけてもいいのではないかと感じる。
自然環境の保全と再生ではなく、活用ということも入れていいのではないか。賑わいや景観でも、触れられていない気がした。

（部会長）
活用というキーワードで、いわゆる身近な自然と本当に慣れ親しむ機会をつくるという取り組みは、特に概要にも入っており、重要なことであるため、ありかなという気がする。
余りにも身近すぎて当たり前だというような項目という気はするが。意見、あるいは事務局の今の活用について、意見なり回答をいただければと思う。

（事務局）
指摘のとおり、自然の活用についての記述は、景観にも実際のところは入っていない。この活用の視点については、事務局で預からせていただき、検討させていただきたい。

（部会長）
取組方針で、身近に自然と触れ合うことのできる機会の創出につなげていくとあるため、取組事業があっても何ら不思議はない関係かと思う。

（委員）
島に関しては、賑わい部会で環境や振興を扱っている発言だったが、ここではあくまでも宗像市内の自然環境の保全や再生について扱っている。現状と課題では、宗像市の象徴ということで、釣川とさつき松原という個別の地名があがっている。そうすると、大島や地島の自然環境も保全しているのだろうが、逆に規制しなくていいのかなという気がしないでもない。大島や地島で、このような自然保全活動に取り組んでいるとか、今後はこのようにしたいということがあるならば、現状課題で離島についても記述したほうがいいのではないか。
個人的に、ここの海岸ごみについて興味があるため、そのあたりと絡めると特色が出ておもしろいのではと思った。

（部会長）
　提案だが、例えば協働にある清掃活動や啓発活動では、市民が取り組んでいるということだが、島の問題について、これから取り組むのであれば基礎調査や市民と一緒に環境保全について考えるなど、島の今の実情に合わせた保全あるいは活用に関する市民サイドからの施策があってもいいような気がする。

（事務局）
　提案については、検討に入りたいと思う。
地島は国定公園であるため、自然公園法の規制を受けており、法的に保護されている地域。大島は世界遺産に絡み、準景観地区の検討をしている。保全体制は整っているもの、今から整えていくものもある。世界遺産のためでもあるが、この貴重な資源を次世代に引き継いでいくために行うこと。海と島、本土側の景観と豊かな環境というのは、世界遺産に関係なく、次世代に引き継いでいくための価値ある共有財産であるため、そのようなことを表現する方向で検討していきたい。

（部会長）
　そうすると、この保全の項目が１本しっかり立ってくるような気がする。

（委員）
　この項目の中にも、やはり環境教育が必要だと思う。

（部会長）
　その通りだと思う。次はテーマが違うため、一区切り付ける。

（委員）
　温暖化防止の推進は各市町村の特性があるため、一概に福津や宗像はどうだということにはならないと思う。その中で、宗像の温暖化防止の推進は何を１番にやるべきか、大きなテーマを挙げた方がいいような気がする。
　福岡周辺の１０万人規模の市町村の中で、宗像が最も家庭から出るCO_2の比率が高い。そのため、家庭から出るCO_2の削減を触れていただきたい。環境がいいということは、定住化にも非常に関係があると思う。この温暖化防止対策の推進に、家庭における温暖化防止みたいなテーマを設け、考えられたどうか思う。

（部会長）
　取組事業の中で、子どもや省エネ、CO_2削減のための機器の名称が具体的に出ているが、どこから排出されるCO_2を削減するのかが明記されていない。特に一般家庭から出される

CO_2の排出量が一番大きいということであるため、難しい問題とは思うが、そこをどのように施策に結びつけるかということになる。ＬＥＤや太陽光発電を普及するこもそうだろうが。

（委員）
宗像は、コミセンなどの公共の建物に太陽光発電を進んで取り入れている。しかし、そのフォローが全くできてないと思う。
太陽光発電を付けた時には、どれぐらいのメリットがあるかというのは計算している。その関心を市民が持つように、効率よく利用した結果をＰＲし、家庭の省エネにつなげるかということを検討してもらいたい。
一つの例だが、各コミセンには電気量計がある。ここでは太陽光発電でどれだけの電気量を太陽で発電し、どれだけのCO_2が削減されたかをもっと市民にＰＲし、関心を持ってもらうことが最終的にはまちづくりの目的ではないかと思う。

（部会長）
意見はいかがか。はいどうぞ。

（委員）
市役所では、省エネ対策をしっかりしているのか。主な取組事業のところに明記してはどうか。
CO_2排出量削減のためには、市民の日常生活から出る排出量を減らす環境啓発が多分メインになると思う。また、事業者に対しても、CO_2削減の取組みを促すと思うが、市役所がCO_2排出削減に取り組んでいないと思われると、あれというふうに思うのではないか。
物の購入や事業活動を行うにあたり、市役所が事業者として率先してCO_2削減のために取り組んでいる姿を見せることが、市民や事業者のモデルになるのではないか。また、そのような姿勢を示すことが、市民や事業者への波及効果につながると思うため、主な取組事業のところに、市としての取り組みや、計画に基づいた事業実施などを記載したほうがいいのではないか。

（事務局）
市が策定している地球温暖化対策実行計画として、区域施策編と事業実施編がある。その中に、そのような記述が入っている。これをよく検討し、どういうものを盛り込むことができるのか検討したいと思う。

（部会長）
ここの区分では、太陽光発電かＬＥＤかというような捉え方が多いと思う。今現在では、

ほかの未利用エネルギーなど、幅広いエネルギーの議論がなされ、体系的に整理されている。ここの文言だけを見ると、太陽光かＬＥＤかとなっているが、もっと深めた方がいいのではないかと思う。

公共施設が率先してCO_2削減のための努力をすることは重要な施策であり、また一方で、各家庭で努力をしていくことになると思うが、次のキーワードとして地域の話しが出てくるのではないかと思う。俗にいうスマートコミュニティーといった一定のエリアにおいて、計画的にCO_2削減あるいは電力消費量のピークカットの実施や、そのような情報を提供するというのは、先進地ではかなり実施している。宗像市が環境首都をねらう必要はないが、公共施設と家庭に地域をプラスした取り組みの検討や、次世代の地球温暖化についての施策も盛り込んではどうかと個人的に思ったので、検討してみてはどうか。

（委員）

雑談だが、会合のため県庁に行ったが、とても暗かった。県庁の職員から、暗くし過ぎたため、転んでけがをしてしまい、照度を上げることになるとの説明があった。転んだ原因がはっきりしておらず、県庁が照明を暗くすることで、省エネに取り組んでいるという見本になることから、明るくしないように伝えた。

宗像市では市役所が見本となる。市役所の中が暗ければ、住民の実行にもつながるため、辛いとは思うが言わせてもらった。

（部会長）

先ほどの提起だが、自然環境という言葉が両方の施策にまたがっている。全体会で議論しておくべきことだったのかもしれない。何となくしっくりしないと思うため、少し議論なり、意見、提案があれば。

施策概要をみると、前半が生活環境の保全で、後半が自然環境の保全に向けた取り組みと記載している。前半では、生活環境と自然環境が快適に過ごすためには、いろいろなトラブルも出てくることが、３つの区分で整理できているかと思う。後半は、再生可能エネルギーを活用した、いわゆるCO_2の削減による温暖化防止の取組みや、川や森の荒廃を防ぐことで美しい自然を身近に感じ、市民が安らぎを感じることができるような事業とあり、ちょっと無理があるのではないか。施策概要に無理があるような感じがする。

しかし、環境保全とCO_2削減は、環境に関するセクションが実施するという体制問題もあると思うため、何かうまくまとめる方法、アイデアなりがないか。

（委員）

この施策の概要が自然環境の保全に向けた取組みで、温暖化防止や釣川等の荒廃を防ぐという区分になっている。この施策の区分では、上に釣川関係があり、下が温暖化対策になっており、記載の順番がねじれているため整理する必要がある。

上に釣川などの自然環境保全関係、下に温暖化対策とするのであれば、施策概要も先に釣川や松原、もう半分に温室効果ガス排出量削減の取組みと変えればいいのではないか。そのようにすれば、まず自然環境の保全に向けた取組みを掲載していると記載し、釣川やさつき松原、離島等々の取組み、さらに温暖化対策を記述すれば、やわらぐのではないかという気がする。

（部会長）

今から全体を１本にまとめるのは難しいか。

施策概要の文章を再考したほうがいいという感じか。ここを変更し、保全とCO_2削減二本立てとして、きっちり書いたほうがいいかもしれない。無理につなごうとすると、概念が違うものが一緒になっているように感じる。

CO_2削減は議定書以来キーワードとなっているが、本来の意図では「地球環境の保全」がベースである。少し大局的な記載とし、CO_2削減を共通目標にすると記載したほうがいいのではないか。「自然環境の保全」と「地球環境の保全」というキーワードがあるといいような気がする。地球そのものの温暖化防止のためのCO_2削減がベースだと思う。そういった大きなところに立ち返るという取りまとめもあるのではないかと思う。

今日の重要な意見を私の方で整理をさせていただき、次につなげたいと思う。

まずは、戦略的取組が外に出たということは、一応合意ということでよろしいか。

今回は二つのテーマ「豊かな自然と快適な生活環境の融合」「自然環境の保全と再生」であった。

意見としては、最初のごみについては、ごみの減量と適正処理が重要な施策になっているため、それにつながるような前半のまとめ方、特に３Ｒを入れるのであれば、もう少ししっくりいくようなまとめ方があればいいのではないかという意見が、全体として支配的だったかと思う。

２番目の下水道工事については、今や上下水道というのは一体的なものである。また、整備はほぼ完了していると書いてあるが、それ以外はどうなのか。下水道に限定しないよう、特に取組事業が一つとなっているため、検討していただきたいと思う。

環境汚染は、順番が逆である。市民活動団体、コミュニティから記載すると、何が大切なのかが見えてこないため、まずは入れ替えをすることが重要。また、情報提供がベースであるため、２種類の情報提供をきっちり分け、受け取りやすいようにしていただければと個人的に思う。

もう一つの施策である豊かな自然環境も、たくさん意見をいただいた。

環境保全では、島の取り扱いについて１項目入れていただきたい。また、身近に自然と触れ合うことのできる機会の創出のいわゆる活用という重要なキーワードが出たため、これをぜひ織り込んでいただきたい。

最後の地球温暖化は次世代のものも入れ、「自然環境保全」と「地球環境保全」という大

きな体系的な捉え方を一つに入れることについて、整理、検討いただいたらどうか。
　大分端折っているが、以上が今日の議論ではなかったかと思う。

（委員）
　「豊かな自然と快適な生活環境の融合」は、都市ブランドはないという説明だったと思う。戦略的取組は、必ずしも協働と都市ブランドの両方を満たす必要はないという説明が以前あったかと思う。都市ブランドを設けなかった理由に関して、説明をいただきたい。協働と都市ブランドが必ずしも両方を記載しなくてもいいとはなっているが、多くの項目では都市ブランドの記載があると、「豊かな自然と快適な生活環境の融合」に記載がないことが逆に悪いイメージにならないのかという気がする。

（事務局）
　前回の自然災害への対応と危機管理体制の強化と同様に、これはまちづくりのベースである。都市ブランド云々の前に、ここではごみの減量と適正処理、下水道、環境汚染に対しては十分に取り組む必要がある。そのため、都市ブランドに関しては、特別に記載はしていない。

（部会長）
　その他の議題ということで、事務局に戻すがよろしいか。

４　その他

（事務局）
　次回は、2 月 17 日月曜日、19 時からこの場所で開催。第 4 回開催日も調整させていただきたい。
　では、3 月 17 日 19 時からこの会議室で開催ということでお願いしたい。

次回開催日：平成 26 年 3 月 17 日（月）19：00～宗像市役所